

現場訪問

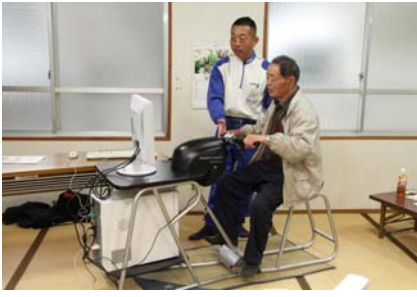
●愛媛県東温市上林地区高齢者二輪車安全運転講習会

# ライディングトレイナーを活用した 高齢ライダーへの安全運転教育

3月10日、愛媛県東温市の上林公民館で二輪車安全普及協会四国ブロックが主催する「安全運転講習会」が開催された。同講習会は日頃、バイクを運転する65歳以上の高齢者を対象としており、この日は34名が受講した。

開催の目的について、二輪車安全普及協会四国ブロックの細谷昌裕会長は次のように話す。「愛媛県では昨年、39人の高齢者が交通事故で亡くなりました。

代表者がRTを体験している状況が大型スクリーンに映し出される



平成25年は「アンダー30」ということで、県内の高齢者の交通事故死者数を30人未満に抑えることを目標にしています。また、四国における二輪車販売台数を県別にみると、愛媛県が約半数を占めています。そこで、当協会四国ブロックとしても、二輪車を利用している高齢者の皆さんの事故防止のために指導を強化していきたいと考えています。



高齢者への安全運転講習会が終了した後、黒澤インストラクターは四国ブロックを代表する愛媛県二輪車指導員10名にRTを使った安全運転の指導方法を説明。今後、この10名がRTを使って愛媛県内の高齢者や高校生に安全運転指導を行う予定である

講習会は、交通安全センターレインボー熊本の黒澤明良インストラクターが「ホンダライディングトレイナー（以下、RT）」を使って指導。RTは、ライダーの危険予測能力の向上を目的にホンダが開発したものである。

今後の取組みについて、細谷会長は「当協会四国ブロックではRTを導入し、愛媛県二輪車指導員が高齢者や高校生に安全運転教育を展開したいと考えています」という。



危険だった場面を様々な視点から再生し、どのような危険予測が必要だったかを参加者に考えてもらう

## ●埼玉県警・所沢警察署・新入学期交通安全学びの会

# ASIMOと学ぼう交通安全

## NEWS REVIEW



ASIMOが「道路を横断する前に止まって、右・左・右を観る。クルマや自転車が来ていないことを確認してから右手を大きく上げて渡る」という模範を示し、子どもたちがそれにならって一緒に渡る

3月2日、早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）にて「新入学期交通安全学びの会」ASIMOと学ぼう交通安全」が開催され、所沢市内の親子など約400名が参加した。講習が始まる前に、所沢警察署の後藤秀明署長がホンダのヒューマノイドロボットASIMOに一日警察署長委嘱状を贈呈。続いて、ASIMOが交通安全宣言を読み上げ、道路の安全な横断方法など、子どもたちに交通安全指導を行った。後藤署長は「私が子どもの頃、ロボットというのは夢のまた夢でした。しかし今、ASIMOというロボットが現実には活躍しています。そこで、交通事故をゼロにするという夢をいつか実現させたいという思いを込め、ASIMOに一日警察署長をお願いしたというわけです。ASIMOが指導するということで、参加者の関心も高く、多くの方々に交通安全に対する理解を深めていただけたと思います」と語った。



開会の挨拶を述べる所沢警察署の後藤秀明署長

後藤署長からASIMOに一日警察署長委嘱状が贈呈された

## 3 ●危険予測トレーニング(KYT) DVD教材 動画で再現した交通場面から 事故防止のポイントが学べる

Hondaのホームページの人気コンテンツ「道路のキケン、発見！」※2がDVDとなって発売された。運転中や歩行中の交通事故を防止するためには、交通場面で出会う様々な危険を予測し、適切に対応できる能力「交通センス=危険予測能力」を身につけることが大切である。このDVDは四輪車、二輪車、自転車、歩行者の各カテゴリーごとに動画で再現された交通場面のケーススタディ計25場面が収録されており、免許を持たない学生や高齢者の方でも事故防止のポイントが学べる内容になっている。



価格：3780円（税込）  
企画・制作：本田技研工業（株）安全運転普及本部  
（株）JAF MATE社

●DVDに関するお問い合わせ先  
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL：03-5412-1736

※2 以下のホームページでご覧いただけます。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

## 2

## ●一般社団法人日本自動車工業会 宮城光氏と一緒に考える 高速道路の安全な走り方

3月22〜24日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で「第40回東京モーターサイクルショー」（主催：東京モーターサイクルショー協会）が開催された。同ショーのイベントの一つとして23日と24日の両日、一般社団法人日本自動車工業会がライダー向けの安全運転訴求を目的としたトークショーを行った。内容は、元二輪GPワイクスライダー



高速道路の安全な走り方について解説する宮城光さん

「インタージャーナリストとして活躍している宮城光さんを迎え、「高速道路の安全な走り方」について来場者と考えていくというものである。高速道路での二輪車事故の約7割は転倒など車両単独による事故である（平成19〜23年・公益財団法人交通安全総合分析センター調べ）。ことから、宮城さんは「高速道路では何も考えず、ただアクセルを開けて走っている状態が危険です。突然、前車が減速したり、自分の前にクルマが割り込んできたりしても、適切な対応ができるように準備しておくことが大切」と来場者にアドバイス。死亡重傷者（第1当事者）を年齢層別にみると、最も多い年齢層は40代（34.5%）であるというデータ（平成23年・警察庁調べ）なども紹介された。さらに、万一事故に遭ってしまった時、自分が動ける場合は統廃事故防止措置をとりつつ、バイクを路肩などに移動させた後、速やかにガードレールの外側など安全な場所に退避してほしいと呼びかけた。また、会場では来場者に高速道路での事故を防ぐための啓発パンフレットが配布された。

※1 二輪車が第1当事者となった事故（重傷以上）。第1当事者とは交通事故の当事者のうち過失が最も重い、又は過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。